

祈りの言葉

今日、ぼくたちは、水俣病で亡くなられた方々を思い、この場所に集まりました。かつてこの海で 悲しい出来事が起き、大切な命が失われたことを、ぼくたちは、決して忘れてはなりません。

ぼくたちは、去年「水俣に学ぶ肥後っ子教室」で、多くのことを学びました。病気による苦しみ、それだけでなく、伝染病と誤解されたことによる差別や偏見によって、たくさんの方が、悲しい思いをされていたことに 胸が痛くなりました。豊かさを優先し、尊い命や 美しい海を後回しにしてしまった過去の過ちを、ぼくたちは、決して忘れてはならない と 強く感じました。また、公式確認から70年たった今もなお、水俣病の症状や 差別に苦しんでいる方がいらっしゃるということも、絶対に忘れてはならないことだと思います。

いま、世界中で、SDGs についての取り組みがなされています。その、持続可能な、だれ一人取り残さない社会づくりは、水俣の苦しい経験を学んでいるぼくたちこそが、率先して 行っていかなければならないことだと思っています。

暮らしが便利になること、豊かになることは、大事なことです。でも、そのかげにひそむものも、決して忘れてはなりません。

豊かさは、ときに 命をうばうことを。

豊かさは、ときに 人と人とのつながりを たってしまうことを。

豊かさのかげで、今もなお、つらい思いをしている方がいらっしゃるということを。

ぼくが通う久木野小学校は、美しい自然に囲まれた学校です。久木野には、豊かな森、水が透明な川、有名な寒川水源などがあります。豊富な緑は、きれいな空気を生み出します。また、澄んだ水は、虫や花、魚など 生物の命をはぐくむとともに、田畑をうるおし、実りをもたらし、この海へとたどり着きます。

ぼくは、久木野が、水俣が大好きです。水俣は、山も川も海も美しく、そして、人が優しく、とても素敵なところです。大切なふるさとです。ぼく自身、そんな水俣の良さを、もっともっと理解し、これから出会う人々に、そのすばらしさを伝えていきたいと思っています。

ぼくたちは誓います。

- 一つ、正しく学び、正しく行動して、差別や偏見のない、だれ一人取り残さない社会をつくっていきます。
- 一つ、自然を大切にし、豊かさだけでなく、環境についてもしっかりと考えていきます。
- 一つ、水俣の良さを、たくさん発信していきます。

亡くなられた皆様、皆様が大切にされた このふるさと水俣を、ぼくたちがもっともっと優しく、もっともっと輝く場所にしていきます。どうぞ安らかにお眠りください。

令和8年5月1日 児童・生徒代表

水俣市立久木野小学校6年 吉田 泰